

「文化部のインターハイ」と呼ばれる全国高校総合文化祭（総文祭）が27日から佐賀県内で始まる。今年は山梨県内から19部門に20校約300人が参加。本番直前、全国の舞台に挑む高校生を取材した。〈手塚美菜子、本田未来、清水悠希〉

アナウンス

山梨の魅力伝えたい

山内悠誠さん
（甲府南3年）



アナウンス部門には、山内悠誠さん（甲府南3年）、福田涼奈さん（山梨英和2年）、功刀なつさん（日川2年）が出場。自ら取材した内容を生かした原稿で、山梨の良さを伝える。

音響機材に関心があり、入部したという山内さん。全国競技会などに出品する花火師を取材した。原稿は「読みやすくするため」カタカナ表記にするなど工夫。「面白いと言われるのがちょっとコンプレックスだった。でも放送部に入り、話す面白さを知り全国へつながった」。後輩からもいじられるという愛されキャラは「自分の力だけでは出られなかった。顧問や友人、両親と、読みを聞いてくれる部員に感謝」と謙虚に語る。

福田涼奈さん
（山梨英和2年）



中学時代は弁論大会で活躍した福田さんが選んだテーマは木喰上人。「仏像の笑顔がすてきで、制作時期で表情が異なることに興味を持った」という。穏やかに話す「人前で発表するのはどちらかと言えば好き」と物おじしない一面も。「気持ちを込めて読み、木喰さんの魅力を伝えたい」と笑顔で話す。

功刀なつさん
（日川2年）



「ふどう飛ばし世界大会」を取材した功刀さんは自身の体験を盛り込む。「数字が多く、強調して読むよう心掛ける」という。「まず自分が楽しみ、あとは山梨にこんな面白いイベントがあるって全国の人に知ってほしい」と目を輝かせる。「大会中に誕生日を迎える自分へのプレゼントとなるように頑張りたい」と意気込む。